



きたかみの水環境

北上川、和賀川をはじめ、わき水や地下水など、豊富な水が存在する北上市。私たちは豊かな水環境の恩恵を受けています。生活に密接する水の安全性や生活環境の保全などのため、市では水質調査を毎年実施。今回は、生活に欠かせない水道水と、生活排水の影響を受ける中小河川の22年度測定結果をお知らせします。

主な基準項目の水質検査結果 ー平成22年度平均値ー

番号	項目	基準値	単位	北上川浄水場系	江釣子浄水場系	岩手中部浄水場系	仙人配水池系	備考
				給水栓	給水栓	給水栓	給水栓	
1	一般細菌	100以下	個/ml	0	0	0	0	病原生物
2	大腸菌	不検出	—	不検出	不検出	不検出	不検出	
6	鉛およびその化合物	0.01以下	mg/l	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	重金属
10	硝・亜硝酸態窒素	10以下	〃	0.89	1.30	0.13	0.26	無機物質
12	ホウ素およびその化合物	1.0以下	〃	0.03	0.02	0.44	0.01未満	
26	総トリハロメタン	0.1以下	〃	0.033	0.010未満	0.010未満	0.010未満	消毒副生成物
31	亜鉛およびその化合物	1.0以下	〃	0.007	0.010	0.010	0.005	色
32	アルミニウムおよびその化合物	0.2以下	〃	0.018	0.005	0.011	0.008	
33	鉄およびその化合物	0.3以下	〃	0.019	0.004	0.008	0.009	
34	銅およびその化合物	1.0以下	〃	0.009	0.015	0.017	0.004	
35	ナトリウムおよびその化合物	200以下	〃	9.0	24.9	18.7	5.1	味覚
36	マンガンおよびその化合物	0.05以下	〃	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	色
37	塩化物イオン	200以下	〃	12.7	8.8	30.3	5.9	味覚
38	硬度	300以下	〃	36.7	41.2	61	30.9	
39	蒸発残留物	500以下	〃	91	135	165	58	
45	有機物(TOC)	3以下	〃	0.8	0.3未満	0.4	0.3未満	基礎的性状
46	pH値	5.8~8.6	—	7.6	7.6	7.2	7.9	
47	味	異常でない事	—	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	
48	臭気	異常でない事	—	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	
49	色度	5以下	度	1未満	1未満	1未満	1未満	
50	濁度	2以下	〃	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	

安全な水道水をお届けします
水道水の水質調査結果
 北上川浄水場 ☎66-3231

水道の蛇口(給水栓)から出る水は、水道法により50の検査項目が定められています。22年度の検査結果は、すべての基準に適合しています。

※番号のない項目は、基準値と比較し検出濃度が低かった項目のため、掲載を省略しています。
 ※全項目の検査結果は、市ホームページ、和賀庁舎2階上水道課、図書館で閲覧できます。

● 水道水の放射性物質測定結果

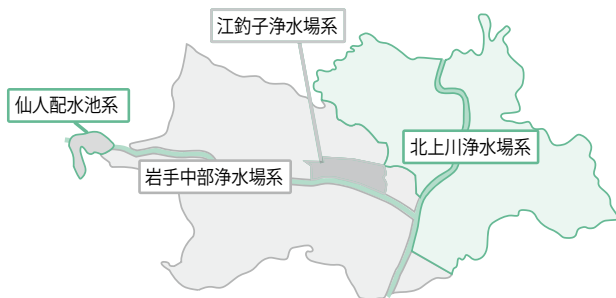
岩手県環境保全課が5月16日に採取した北上川浄水場の水道水については、核分裂生成物(放射性物質)は検出されませんでした。(5月17日発表)

また、3月22日以降、岩手県環境保全課が毎日測定している盛岡市の水道水についても、6月20日現在までに検出された量は、ごく微量であり問題のないレベルとなっています。

盛岡市の水道水でこれまでに検出された放射性物質の最高値は、放射性ヨウ素(基準値:300ベクレル/kg)が5・29ベクレル/kg(3月23日測定)、放射性セシウム(基準値:200ベクレル/kg)が0・13ベクレル/kg(3月23日)であり、どちらも基準値を大幅に下回っていて、人の健康に影響を及ぼすレベルにはありませんでした。

わが家の水道水はどこ給水栓?

家庭に届けられる水道水は、住む地域によって取水する場所が異なります。ご自宅の水がどの系統の給水栓なのか、おおよそ下の水道配水系統図のようになっています。





中小河川の水質調査結果

生活環境課 内線 3423

人の健康と生活環境を守ります

市内19中小河川で水質測定を実施。調査項目は河川によって異なりますが、主に生活関連としてpH、BODなどで、上流の地域に事業所がある場合にはカドミウム、ヒ素、水銀などの値も調査します。

河川の汚れ具合の指標

(BODの類型別環境基準)

類型	BOD(mg/l)	指標
AA	1.0以下	かなりきれい
A	2.0以下	きれい
B	3.0以下	少し汚れている
C	5.0以下	かなり汚れている
D	8.0以下	非常に汚れている
E	10.0以下	

水の汚れを示す代表的な指標・BOD値(年平均値)を表1は、採水地点19地点のうち18地点でA類型の環境基準を満たしており、きれいな水質を保っています。

黒沢川と大曲水路のBOD値(平均値)表2の経年変化を見ても分かるように、下水道などの整備に伴い河川水質は全体的に改善されてきています。特に、曠土水路はB類型の環境基準に相当する結果ではありましたが、昨年に上流域の下水道が整備され、汚染の要因の一つであった家庭雑排水が流れ込まなくなり、以前より水質が改善されました。

各家庭での生活排水対策のほか、下水道や合併処理浄化槽などを利用し、よりよい水質を維持しましょう。特に下水道利用可能区域で未接続の人は、速やかに接続し水洗化に努めましょう。皆さんのご協力をお願いします。

カドミウムなど一人の健康の保護に関する項目も、測定したすべての地点で環境基準以下となっています。

表1 平成22年度の中小河川の水質調査結果(年平均値)

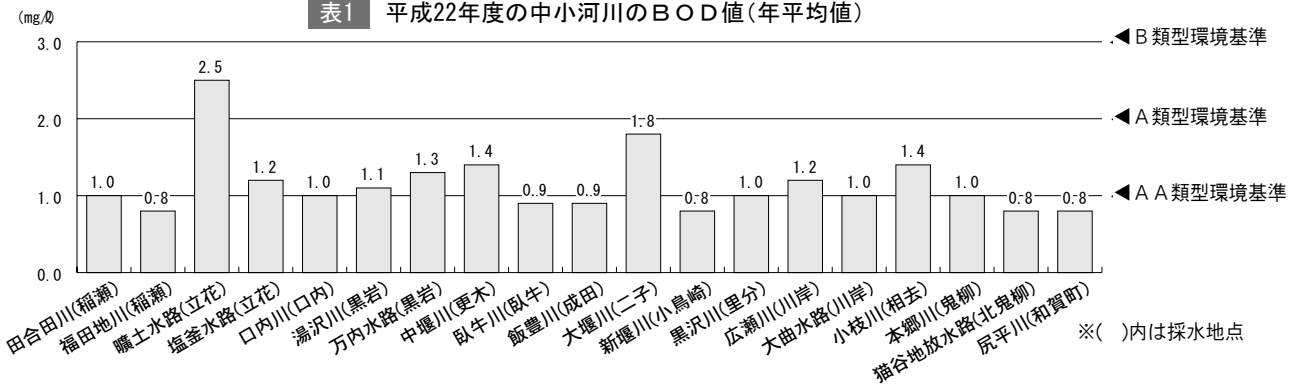
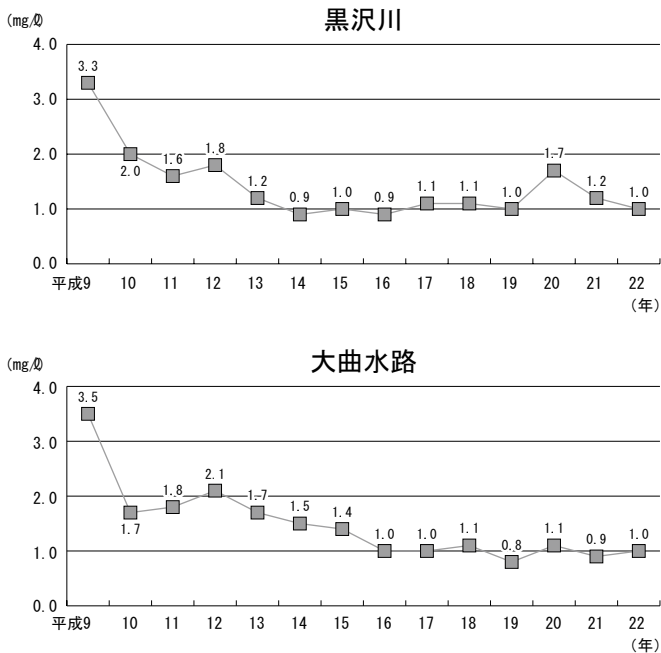


表2 BOD平均値の経年変化



用語説明

※1 BOD(生物化学的酸素要求量)

水中の有機物が微生物の働きによって分解される際に消費される酸素量。この数値が大きいほど水中に有機汚濁物質が多く、水質汚濁が進んでいることを意味します。

※2 類型

類型は、河川、湖沼および海域別に利水目的に応じて指定されている区分をいいます。各類型ごとに環境基準が定められています。市内では北上川(A)、和賀川(A・AA)、飯豊川(A)、夏油川(AA)が類型指定されており、それ以外の河川は指定されていませんが、参考のために照らし合わせています。

※3 環境基準

人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準として、政府が定める行政目標。環境基本法で大気、水質汚濁などに係る環境上の条件について定めることとされています。